

幼児教育センターだより



大田区教育委員会 幼児教育センター
(5744) 1618

3月に入り、暖かな日差しになるとともに、日も少し長くなってきました。鮮やかな花々が目を楽しませてくれる季節です。子どもたちは、季節の変化をどう感じているか一緒に自然を楽しみたいですね。今回の幼児教育センターだよりは、「子どもの目線から見えている環境」と「園や小学校でのエピソード」を掲載します。

【子どもには、こう見えている！！】

この春、新学期を迎えるお子さんがいる御家庭の方もいらっしゃると思います。保育園や幼稚園の通園では保護者の方の付き添いがありますが、小学生になると通学や習い事、近所の公園などに「ひとりで」あるいは「お友達」と行くことが増えるのではないのでしょうか。

御家庭でもお子さんが「ひとり歩き」を始める時期を前に身近な道路や公園に潜む危険について教え、学校や公園まで一緒に歩いて「安全な歩き方」を確認できるとよいと思います。

子どもは、1度左右確認したとしても視野が狭いため近づいてくる車が見えず「大丈夫！」と思い道路を渡ってしまうのです。

その行動は、「とびだし」や「不注意」に見えるので、大人は、「あぶない！」「左右をよく見なさいって言ってるでしょ！」と子どもを叱ることになってしまいます。子どもは見えているつもりでも実際に見えていないこともあります。

大人が「ちゃんとみて！」と注意してきたけどちゃんと見えていても、この程度しか見えていないと知ることで子どもへの伝え方が変わってくると思います。

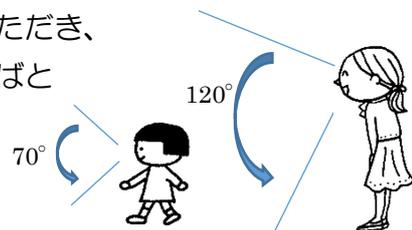
子どもの目線の高さから見える視界と大人が目線の高さから見える視界は、高さも違って見えます。

実際に行われている交通安全教室では、子どもは、小さいので運転手から見えにくい

ため、しっかり手を挙げて右左右をよく見てからわたることを教えています。



改めて、子どもの視界の狭さを知っていただき、事故、怪我の防止に役立てていただければと思います。



【子どもの目線の高さからみたら・・・】

保育者の方を対象とした研修会で、講師の先生のお話の中で印象に残ったことをご紹介します。

講師：「スマートフォンもしくは携帯電話を持っている方は、手元に持って集合してください。」

講師：「下を向いた自分の顔を下からのアングルで撮影してみてください。」（参加者同士撮影）

保育者：講師の指示通り下からのアングルで撮影

講師：「撮影した写真を確認してみてください。」

保育者：ザワ、ざわ…えーっ！フッフ（笑）

講師：多少の違いはありますが、子どもの背の高さから先生が立っている状態を見た姿は、このように見えています。子どもに話しかけるときや、叱るときなど、このことを意識すると良いです。

保育者：普段自分の顔を下から見ることはあまりないので、子どもからの見え方を思いだし子どもに関わるときや話しかけるときに、意識しようと思います。

【年長児クラスのエピソード～子どもも大人も夢中！体験は力なり～】

園庭や散歩先で自然の生き物や植物に関心が高まってきたころ、

保育室の本棚に図鑑や本を用意しました。その中に、「かたばみ」という植物の本を子どもたちに読んでみました。葉の特徴はハート型、葉に酸が含まれていて、この葉で十円玉を磨くとピカピカになるという内容です。子どもたちの反応は、

「ピカピカになるの？」「本当かな？」と興味津々！園庭や散歩先を探したことはいうまでもありません。ある日、10円玉を用意して実際に磨いてみました。小さな葉っぱを摘み、一所懸命に磨くことに没頭する子どもたち、「〇〇ちゃんの10円きれい！」「ハートの葉っぱすごい力だね」ともう夢中です。ひたすら磨く子どもたちの目には、「やった～！」という達成感が感じられました。磨く前と磨いた後の両方が見比べられるようにすると、最後までやり遂げたことで自信となり、誇らしげな表情をしていました。これからも自分達で考え試せる環境を大切に、一緒に楽しみたいと思います。

【小学校1年生のクラスで聞こえてきたエピソード・・・】

担任：「今日は手紙がたくさんあります。綺麗に折って連絡袋に入れてね。」

子ども：「はーい。」

手紙を半分に折り、連絡袋に入れ終わったころ・・・

担任：「追加の手紙を配ります。」

子ども：「えっ！スイカの手紙？？？（笑）」

担任：「スイカじゃなくて追加です。」

子ども：「スイカと思っちゃった！」

「先生～、追加って何？」と初めて聞く言葉に感心をもち、担任に聞いていました。

新しい言葉を覚える瞬間を見ることができ、日常の中で学びの機会が、多くあると感じました。

